

I 実践

1 人間としての生き方についての自覚の向上を図る

(1) 授業研究の推進

昨年に引き続き、「単元を見通した1時間完結型授業」や「ゴールから考える授業づくり」の視点から、課題解決的な学習や話し合いの場面の設定、学習のまとめと振り返りの充実を目指した授業作りを推進した。

(2) 呼名のしかたの徹底

呼名の際は、名前に必ず敬称を付けるなど、生徒を一人の人間として尊重する取組を継続している。

(3) 一人一人が尊重される学校・学級づくり

各学級で、帰りの会で日直がその日にあった級友のよい行いや努力を発表し、「今日のヒーロー賞」として掲示した。生徒一人一人が所属感や自己有用感をもてるような環境づくりに努めた。

2 差別や偏見の問題を直視し、正しい判断力の育成に努める

(1) 自他のよさに気づく場の設定と言葉かけの工夫

本校では、家庭学習のノートを終えた生徒には「努力を讃える賞賛状」を渡して表彰している。10冊終了時には全校集会でも紹介しており、自分の努力を認められる機会となった。

(2) ネットトラブル防止教室の実施

昨年度から、インターネット上の人権侵害を未然に防ぐため、ネットトラブル防止教室を実施している。本年度も、2月25日に実施を予定している。昨年はNTT Docomoの講師を招いての実施だったが、本年度は茨城県警察に講座を依頼している。スマートフォンが普及し、トラブルや危険が増す中、生徒が正しい使い方や判断する力を身に付けられるように、情報リテラシーと情報モラルの育成に努めた。

(3) 教科による人権意識の向上

英語科：戦争や国境を越えた友情など、人権尊重の大切さを考える題材を通して、身近なことからできる思いやりや気配りの例などを話し合う時間を設けた。

社会科：公民的分野においては、人権の意味や、様々な人権課題の正しい理解を図った。また、歴史的分野でも同和問題や、アイヌの人々に対する偏見の歴史など、人権に関する問題の根深さを知り、正しい理解ができる指導に努めた。

(4) 職員研修による、人権啓発動画の視聴と、指導における重点の共有

職員研修で動画の視聴を行った。また、本校の実態からみた、指導上の重点内容の確認、共通理解を行った。活用できる教科や単元についての体系的な整理まではできていない。

3 成果

- ・ 各教科や道徳等を通して、差別や偏見について正しい知識をもたせた。生徒一人一人が互いに人権尊重の心を持ち、差別や偏見をなくそうとする態度が育った。

II 今後の課題

- ・ 人権コーナーや掲示物など、校内環境の充実
- ・ 人権啓発動画「ホーム」を活用した授業の継続的な位置づけ